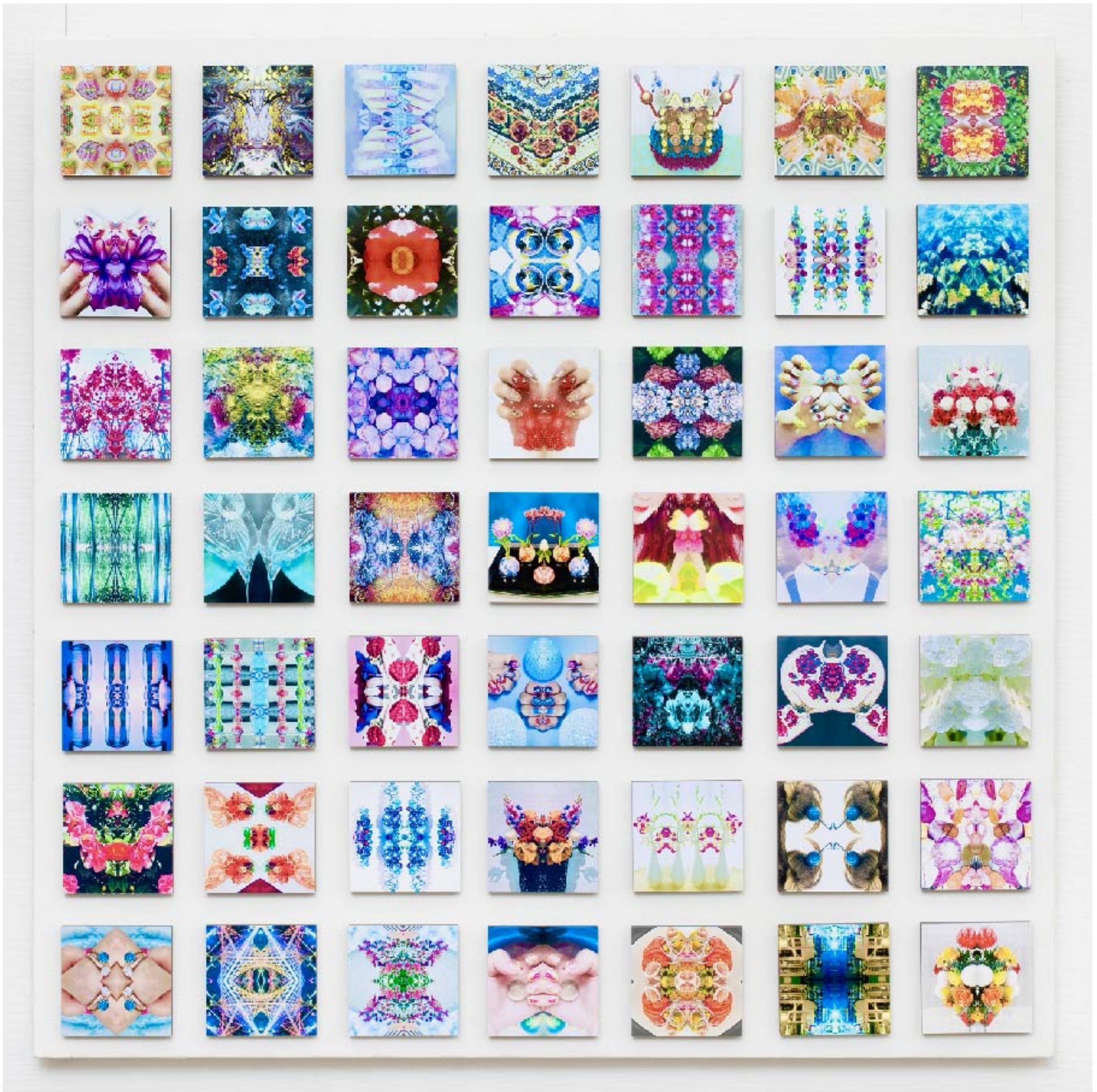


森下 優佳
MORISHITA Yuuka



個性が織りなす世界
写真パネル



個性が織りなす世界
油彩、キャンバス

個性がおりなす世界

ひとつひとつ個性があるモチーフを複雑に絡み合わせることで、あたかもひとつの物体のようなものとして存在させ、さらにその形態を左右対称に配置することによって、個性が複雑に重なり織成する細かいニュアンスの世界を描いた作品である。

日常的に目に触れるいろいろな物の写真を撮り、その画像を加工して左右対称にすることで出来上がった写真からは、見慣れたものとは違った新鮮さが感じられてそれぞれの持つ特徴を際立たせるように個性を発信しているように感じられた。その左右対称の像が、モチーフとなった個々の物たちの本質的に備えていた表情に気づかせてくれ、さらに未知なる物体として美しい形態と秩序を伴いさまざまな創造性を掻き立ててくれる。

制作のプロセスでは、単に写真に写っている物を単純にトレースして描くだけではなく、ひとつひとつのモチーフを少しずつ色味やタッチを変えながら空間や質感の変化を意識して描いている。絵画ならではの空間のなかに写真との違いを表現するために、絵の具を垂らしたりして偶然性を加えた。

モチーフには、ラムネ瓶、ネイル、手、スライムなどを用いて画面全体を青でまとめている。例えば、ネイルにはラムネやビー玉、スライム、水などから連想したことを取り入れたデザインをして、その図像を自らの手に施したものを描いた。紫のスライムを使いラムネ瓶の中の液体との流動性の違いを際立たせ、流れやリズムが感じられる絵に仕上げた。

私が大切に考えていることは、日常に存在するものを絵画的な想像力を通して再確認し、組み合わせることで、新しい世界を生み出すことができるということである。

つまりそれが個性を絵にするという試みである。